

ルーテルリカレント 体験週間 講義概要

時間帯 1限(8:50~10:30) 2限(10:40~12:20) 3限(13:20~15:00) 4限(15:10~16:50) 5限(17:00~18:40)

曜日	時限	科目名	内容	担当
月	2	心理学統計法	心理学は実証科学として発展してきた。つまり、何らかの方法を用いてデータを得、人間の行動や心をめぐるいろいろな現象やメカニズムを明らかにしてきた。データを得る方法には質問紙法、観察法、実験法、面接法等がある。これらの方法で得られたデータを適切に分析するためには、心理学統計法の理解が必要となる。初年度の科目として、記述統計並びに推測統計の初歩的な内容をゆっくり丁寧に講義していく。	谷井淳一 教授
月	3	サイコドラマⅢ	(1)将来、病院や福祉施設でのデイケアや学校で集団活動の指導の機会を持つ可能性がある。グループを運営する方法の一つとして、サイコドラマの方法は役に立つ技法である。そのためのスキルを学ぶ。 (2)サイコドラマの構成 サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し、監督として実践する。 (3)サイコドラマの要素 サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法を学ぶ。	谷井淳一 教授
火	1・2	ソーシャルワーク論Ⅱ	個人や家族への援助について講義と演習を通して学びます。相談援助のための基礎的な面接技術や展開過程などを学びます。	浅野貴博 准教授
火	2	権利擁護を支える法制度	民法を中心に憲法、行政法について講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では、行政処分や不服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護を支える仕組みと法的諸問題、それに係る機関・専門職について、その実際を理解する。	金子和夫 名誉教授
火	3	心理学概論	心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。本講義では、「心理学の成り立ち」について、心理学の歴史と応用について紹介する。また、「人の心の基本的な仕組み及び働き」について、生物学的基礎、知能、パーソナリティ、社会、臨床の各領域の知見や理論について広く概観していく。 各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに、簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。 授業はパワーポイントを用いて行う。	松田崇志 助教
火	3	サイコドラマⅡ	サイコドラマは、主役のこころの世界を立体的に表現し、集団の力に支援されながら自分のこころを検討していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。サイコドラマⅡでは、ダブルなどの補助自我の役割を、主役の心情を理解して適切に表現できるようになることを目指したい。また、少し遊び心豊かなドラマと一緒に創って行きたい。	谷井淳一 教授
火	3	心理検査技法演習	心理検査では、投映法を中心に講義する。各検査の概説、実施方法の説明の後、検査の実施と結果のまとめ方について体験する。結果のアセスメントやテストバッテリーについてふれ、検査の実際について具体的な事例を提示し説明する。	田副真美 教授
火	4	児童・家庭福祉論	児童福祉に関する法体系から始まり、児童福祉の主要な領域について、制度や機関、職員に関する法令を学びます。 授業初期は、法令の条文を一つ一つ見つけて所在地を示し内容を理解する練習をします。授業初期は授業中に社会福祉士や保育士の過去問題に取り組み丁寧に解説をします。	加藤純 教授
火	4	地域福祉論Ⅱ	コミュニティソーシャルワーク、地域ニーズ把握の方法、地域福祉の計画化、社会資源の活用・調整・開発、地域生活を支える地域福祉サービス、福祉サービスの評価と質の確保、地域福祉財源、災害と地域福祉について学びます。	市川一宏 名誉教授
水	1	卒業演習Ⅰ・Ⅲ	ゼミ形式で、卒業研究・論文の取り組みについて学びます。各自の専門分野に基づいた問題関心を掘り起こし、研究のテーマ設定、さらに具体的なテーゼの立て方を学びます。 卒業論文の書き方を学び、完成に向かって研究をすすめる方法を学ぶ。自分で企画した研究を、確実に前進させ、中間発表をへて最終的に論文として完成させるプロセスを学ぶ。	田副真美 教授
水	1	卒業演習Ⅰ・Ⅲ	ゼミ形式で、卒業研究・論文の取り組みについて学びます。各自の専門分野に基づいた問題関心を掘り起こし、研究のテーマ設定、さらに具体的なテーゼの立て方を学びます。 卒業論文の書き方を学び、完成に向かって研究をすすめる方法を学ぶ。自分で企画した研究を、確実に前進させ、中間発表をへて最終的に論文として完成させるプロセスを学ぶ。	高城絵里子 准教授

曜日	時限	科目名	内容	担当
水	3	比較文化論	日本文化を基調として、古代から現代までの特徴ある文化体系を学びながら、並行的に人類発祥の地としてのアフリカの文化から地中海世界、インド、アジア、ヨーロッパなど広範な地域について比較文化的に学びます。「宗教を一つの社会文化現象」と把握する立場から、特にアフリカの伝統的宗教、キリスト教、イスラーム教の関係について比較、対比して歴史的、宗教学的な考察を加えて行きます。現在、アフリカにおいて何故、キリスト教、イスラーム教が急速に伸びているのかを日本、アジアの状況と比較する事により検討していきます。併せて、馴染みの少ないイスラーム文化についても学んで行きます。より身近になりつつあるテーマとして、当然知っておくべき事項を学び、中近東やアジア、アフリカなどで起きていることなどを客観的に学んでいきます。	上村敏文 准教授
水	3	知覚・認知心理学	本授業では、感覚、知覚、注意、記憶、思考といったテーマを中心に上げ、知覚や認知の働きに関する基礎的な知識を学んでいく。人の感覚・知覚等の機序及びその障害、人の認知・思考等の機序及びその障害について理解することを目指す。知覚や認知の働きは普段から当たり前のように行われていることであり、我々の日常生活と密接にかかわりあっている。本授業を通してそのことに気づき、専門的な知識を日常生活に活かすことができるようになることも目指す。各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに、簡単な実験や調査を入れながら、理解を深めていく。	松田崇志 助教
水	4	社会保障論Ⅱ	急速な少子・高齢社会の進展に伴い、年金・医療・介護保険は数年ごとに大きな改正が実施されており、その内容と課題を考えます。	金子和夫 名誉教授
木	1	人間・いのち・世界	人間とは何か、生きるとはどういうことか。私たちの生を深く掘り下げる視点に触れ、「いのち」の問題に迫っていくためのキリスト教的な思索の基本を身につけることを目標とする。関係の存在としての私たち人間のあり方を深く学びながら、生きることの神秘と可能性とを宗教(キリスト教)という地平から探っていく。	石居基夫学長・教授
木	1	ソーシャルワーク論Ⅲ	ソーシャルワークの主要な援助技術であるグループワーク、コミュニティワーク、スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法を学ぶ。授業は、講義と演習の組み合わせで進める。演習では、討議やロールプレイを行う。積極的な参加が求められる。	大曲睦恵 准教授
木	2	いのち学序説	現代社会における「いのち」をめぐる諸問題を踏まえ、キリスト教の視座に学び考える授業。毎回の授業では、主体的に考え、「いのち」について自らの考えを他者に伝えたり、また他の意見に耳を傾ける学習を通して、より深い学びを求めることになる。	宮本新 准教授
木	2	発達心理学	生涯発達の観点から発達心理学の基本概念や理論について学ぶ。 社会構造が大きく変化し、人間の発達に関わる現象も変化を呈してきている現代において、臨床現場や生活場面における発達に関わる現象をどのように理解することができるのか、ディスカッションをしながら学びを深める。 本講義は、以下の内容を含む。 ①認知機能の発達及び感情・社会性の発達 ②自己と他者の関係の在り方と心理的発達 ③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 ④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方 ⑤高齢者の心理	石川与志也 准教授
木	2	障害者福祉論	障がい福祉の理念・歴史をふまえ、障がい児・障がい者福祉に関する法制度と実践の現状を学び、今日的課題について共に考えていきます。	高山由美子 教授
木	2	ソーシャルワークの理論と方法	相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、精神障害のある人の支援に直接役に立つ知識と技術を身につける。講義、プリント教材、視聴覚教材を用いながら、具体的なソーシャルワークスキルを学ぶ。	福島喜代子 教授
木	4	精神分析学	精神分析がその根底に有している人間に対する思想、方法、成果を理解し、人間個々人が有する内なる宇宙への関心を高め、その現代的意義を問うことを目的とする。	石川与志也 准教授
金	1	多文化ソーシャルワーク	第二次世界大戦前に、日本の経済は貧しく、日本人を移民として海外に送り出していた時代がありました。戦後には、日本に残留した在日コリアンや中国の残留日本人孤児とその家族が来日したため、受け入れのあり方が問われました。1980年代から1990年代にかけては、インドシナ地域からの難民を受入れ、また、日本経済の繁栄によるアジアからの多くの出稼ぎ労働者が日本にやって来ました。その過程で、労働、医療、在留に関わる人権や生活問題が生じました。現在では、オールドカマーと呼ばれる在日コリアンの高齢化、他方、労働や結婚でニューカマー(新たに来日した人々)と呼ばれるアジア及び南米出身の人々が日本の地域社会で暮らしています。今後、発展途上国内の失業と日本の少子高齢化により労働力不足が要因となり、外国人労働者とその家族が地域社会に入ってくる。すでに、2019年4月より、特別技能という在留資格により日本で働く外国人が増えることとなります。このような政策の流れによって日本社会はますます多文化・多民族化していくことでしょう。民族や国籍を超えて日本社会は多様化に対応しなければなりません。日本社会が異文化社会からやってくる人々とどのように多文化共生を進めるべきか考えたいと思います。現場での実践家による講義も含まれていますので、有意義な学習ができます。	原島博 教授
金	2	キリスト教と死生学	キリスト教における死や死者に対する聖書的理解、また具体的な思想と実勢位の展開を追うことを大きなテーマとする。 現代の日本において私たちの経験する「死」の問題に、日本のキリスト教はどのように向かい合うのかということを考えたい。 (日本のキリスト教におけるスピリチュアルケアのあり方への探究を目指す。)	石居基夫 学長・教授
金	2	福祉心理学	子どもへの虐待などを題材として、子どもや家族を取り巻く社会問題をどのように理解し支援するか、社会福祉と心理学の視点から学びます。	加藤純 教授
金	2	ソーシャルワーク論Ⅵ	大学で受けた教育の集大成として、ソーシャルワークの中の理論を理解し、スキルを習得し、実際の現場で、総合的・包括的な相談援助が実践できるように学びを深める。	福島喜代子 教授

